令和6年度　大田区立大森第八中学校　自己評価　報告書

○　本校の概要　　令和6年10月31日

☆学校規模：生徒数548名　学級数18学級（15・特支3）　教員数31名　　☆教育目標　・心身ともに健康な生徒　・自ら学び、向上する生徒　・心豊かで、思いやりのある生徒

☆学校経営の基本方針：（1）すべての生徒にとって安心・安全で居心地の良い学校、居場所がある学校　（2）文武両道の学校　（3）生徒が主体的に考え、行動し、協働していく学校

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
個別目標1 予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2 65.7%	学校評価アンケートにおける「授業や生活の中で課題解決能力、自ら判断する能力や創造力並びに情報活用能力等をつけている」、「情報機器を適切に活用した授業を実施している」と回答した割合	4:80%以上	生徒【3】76% 保護者【3】66%	○これまでの取組 ①理数科目等に関する学習への関心を高め、裾野を広げていくことも重要であることを教職員で共通理解をした。 ・豊かな感性や想像力等を育むためあらゆる創造の源泉となる芸術系教科等における学習や、区展・ものづくり教育・学習フォーラムや音楽鑑賞教室を活用した芸術鑑賞活動等を充実させていく。 ②③文系・理系といった枠にとらわれず、各教科等の学びを基盤としつつ、総合学習において、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結びつけていく資質・能力の育成した。 ●今後の改善策 教科等間で連携した学習単元をそれぞれの教科等でどう位置付けるのかについては、この学習をどの教科等の配当時間として設定するかという時間配当の問題も含め、検討する必要がある。	A	3	
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2 65.7%		3:60%以上			B	1	
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2 60%		2:50%以上			C		
						1:40%未満			D		
個別目標2 世界とつながる国際都市を担う人材を育成します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2 65.7%	学校評価アンケートにおける「外国語指導員を活用した英語の授業等でコミュニケーション能力が高められた」、「地球規模の課題についてSDGSなどに関心を寄せ考えられた」、「他人の人権を尊重し、周囲の人との価値観を理解し受け入れた」と回答した割合	4:80%以上	生徒【3】72% 保護者【3】71%	○これまでの取組 ①外国語教育指導員ネイティブ・スピーカーを有効に活用し実践的コミュニケーション能力を培った。タブレット端末を活用することで「聞く」「話す」「読む」「書く」の英語4技能に関する個別最適な学びを充実させた。 ②社会・総合の時間を使い地域社会の歴史や伝統・文化、産業などについて理解を深め、郷土への愛着や誇りをはぐくんだ。・音楽の授業を通して和楽器に触れて親しんだ。 ③地域行事の周知やボランティア参加を呼びかけ、地域と連携・協働し地域への愛着や誇りをはぐくんだ。 ④道徳の時間を使い生徒が ESD の重要性を認識することで、地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす態度をはぐくんだ。 ●今後の改善策 生徒が ESD の重要性を認識することで、地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす態度を育んだ。	A	3	
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1 57.2%		3:60%以上			B	1	
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1 42.8%		2:50%以上			C		
		④授業や総合的な学習の時間などでSDGsについて生徒が意識して関心を寄せることができた、教員が意識を持たせられた。	4:「おおむねできた」と全教員、生徒が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であっ	2 68.75%		1:40%未満			D		
個別目標3 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成します	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1 52.4%	学校評価アンケートにおいて「様々な場面で元気よくあいさつができている」、「学校に登校するのが楽しく学校が好きである」、「早寝・早起き・朝ごはんや健康づくりなど正しい生活習慣を心がけている」、「道徳の授業は充実していて生徒の豊かな心の育成に影響を与えている」と回答した割合	4:80%以上	生徒【3】74% 保護者【3】72%	○これまでの取組 ①豊かな情操や道徳心を培うため、道徳教育推進教師連絡協議会で道徳推進教師の校内還元した。・保護者や地域住民など誰もが参加できる道徳地区公開講座を開催した。 ②英語、数学習熟度別少人数指導や漢字検定、数学検定、英語検定など検定の取得を推進した。・ハチュウ Time（補修教室）を拡充して実施した。 ③体力調査結果の分析し体育の授業改善した。・部活動を通して、主体的に考え、行動し、協働していく力の育成した。・外部講師を招いて、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室を実施した。 ④小学校から中学校への円滑な接続を行うため、義務教育を9年間の枠で考え、小中一貫教育プログラムに基づき、一貫した教育を行うため近隣小学校を更新しました。 ●今後の改善策 保護者を対象に、正しい生活習慣や、生活習慣病を予防するための基礎的な知識について理解を深めるための実習や講義を実施。	A	3	
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1 40%		3:60%以上			B	1	
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1 45.8%		2:50%以上			C		
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1 42.8%		1:40%未満			D		

個別目標４ 学校力・教師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1 58.5%	学校評価アンケートにおいて「授業内容をよく理解している」、「学力は確かに向上している」、「授業を工夫し主体的・対話的な授業や体験活動などを行った」、「一人一人の個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に視点による授業改善を試みた」、「働き方改革を意識して業務適正化に取り組むことができた」と回答した割合	4:80%以上 3:60%以上 2:50%以上 1:40%未満	生徒【3】74% 保護者【3】65%	○これまでの取組 ①一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、これまでの画一的な講義形式の一斉授業から、生徒が主体となり、協働的に課題解決に取り組む授業に取り組みため研究授業・協議会を実施した。 ②ICT推進教師を活用した効果的な授業事を実施した。一人1台タブレットを活用し効果的な家庭学習を充実させた。 ③提示退勤カードを作成して教員の提示退勤時間を可視化した。外部機関と連携し学校外の業務を整理し、教職員の業務負担軽減に努めた。・積極的な年次休暇の取得。教職員のワーク・ライフ・バランスの充実のため「定時退勤日」を決定した。 ④都が主催する模範授業へ参加した。 ●今後の改善策 ・教員の生徒に向き合う時間の更なる確保 ・教員のライフワーク・バランスについて保護者・地域の方々の理解	A	3	
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2 61.4%						B	1	
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	1 37.1%						C		
		④授業内容をよく理解している、自分の学力は確かに向上している。	4:「おおむねそうだ」と全生徒が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねそうだ」と回答した。 2:60%以上80%未満が「そうだ」と回答した。 1:「おおむねそうだ」と回答が60%未満であった。	2 73%						D		
個別目標５ 自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2 65.8%	学校評価アンケートにおける「学校はいじめ問題に対して防止や対応についてしっかりと取り組んでいる」、「困ったり悩んだりしたとき先生は親身になって相談に乗ってくれている」、「校内にはスクールカウンセラー室や保健室など自分を支援してくれたり相談できる場所があると思う」と回答した割合	4:80%以上 3:60%以上 2:50%以上 1:40%未満	生徒【3】75% 保護者【3】70%	○これまでの取組 ①校内における支援体制を充実させることや、インクルーシブ教育について研修を実施した。 ・1特別支援学級と通常の学級との交流を実施できた。・通級指導学級、特別支援教室（サポートルーム）担当教員と連携し生徒支援を継続できた。 ②生活指導部会を通して、いじめの未然防止や早期発見・早期対応の取組を総合的かつ効果的に推進した。 ③スクールカウンセラー等よる学校内の教育相談体制を整えた。 ④学校に登校するのが楽しく、学校が好きである。部活動や学校行事は楽しく、内容も充実している。 ④生徒が安全・安心に成長するための環境づくりを進めるとともに、学級活動、部活動等による日常的な安全指導を行った。 ●今後の改善策 ・生徒の発達段階にあわせて粘り強く指導できる強固な教員組織の構築	A	3	
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	2 68.6%						B	1	
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1 58.6%						C		
		④学校に登校するのが楽しく、学校が好きである。部活動や学校行事は楽しく、内容も充実している。	4:「おおむねそうだ」と生徒が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねそうだ」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねそうだ」と回答した。 1:「おおむねそうだ」の回答60%未満であった。	2 76.96%						D		
個別目標６ 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2 61.4%	学校評価アンケートにおける「学校は避難訓練や防災教育を行い危険や災害に備え安心して生活できる教育を行っている」と回答した割合	4:80%以上 3:60%以上 2:50%以上 1:40%未満	生徒【4】81% 保護者【−】−%	○これまでの取組 ①・デジタル教科書の活用や教育コンテンツの拡充により授業を充実させる学習環境を整えた。・1人1台のタブレット端末を利用し生徒が活用できるように指導した。 ②月1回行われる避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携して行った。 ●今後の改善策 ・デジタルコンテンツの資料の整理 ・効果的な避難訓練についての見直し	A	3	
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2 68.6%						B		
										C	1	
										D		
個別目標７ 学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくります	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2 65.7%	学校評価アンケートにおける「学校は学年だより、学校だよりやホームページ等で情報を発信している」、「PTAや地域等が学校と連携した活動をして生徒を見守ってくれていると思う」と回答した割合	4:80%以上 3:60%以上 2:50%以上 1:40%未満	生徒【3】76% 保護者【3】78%	○これまでの取組 ①コミュニティ・スクール導入に向けて地域協議協議会を開催した。 ②大森警察による生徒見守りパトロールを実施した。 ③スクールカウンセラー便りを通して家庭教育に関する情報発信をした。 ④生徒会、ボランティア部を中心に地域行事、防災ボランティアに参加した。 ●今後の改善策 本格的なコミュニティ・スクール導入にむけて教職員・生徒・保護者・地域への理解と協力についての推進	A	3	・学校内だけで大変なはずなのに校長、副校長ともに地域や家庭にも気を配り大変な努力をされている。全てAをつけたのは頑張っている先生、生徒もたくさんいて、八中の子供たちは明るい顔をして学校生活を楽しんでいるからです。 ・学力向上は大切な課題で、学校・生徒は日々努力していると思います。個別目標7は生徒が成長するには欠かせない事だと認識し、一地域人として見守り、関係作りに協力していきたいと願っております。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2 65.7%						B	1	
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2 68.5%						C		
		④今年に入って地域のボランティア活動や地域行事に協力や貢献したことがある。	4:「おおむねできた」と生徒が回答した。 3:80%以上が「できた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「できた」と回答した。 1:回答が60%未満であった。	1 14.25%						D		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。